



# 共同通信



2010年10月30日 170(380号)

日本基督教団 西宮公会月報 〒662-0834 西宮市南昭和町10-22  
TEL0798-67-4691 FAX 0798-63-4044、Email : koudou@gamma.ocn.ne.jp  
<http://koudou.jp/> 振替 01170-3-4901

2年に一度の日本基督教団の総会、東京は池袋のメトロポリタンホテルで行われます。2008年の折にそのすぐそばのオレンジギャラリーで菅澤邦明・岡理恵の「詩刺繡展」を企画、全国から人が集まるせっかくの機会、人と人が出会う場所をとって願って設けられました。それから2年、今回は「教会と聖書」の執筆メンバーの中から、表紙スケッチ担当の岩井健作・千葉宣義、遠くは青森から写真で誌上からメッセージを届けてくださる岩田雅一、そして今回も詩刺繡ということで、4種にわたっての作品を展示する合同展となりました。10月25日から27日まで合同展「神の国は近づいた」、28日は教団総会が行われているところのロビーで展示と書籍の販売などが行われました。「教会と聖書」は1999年11月に熱い思いをこめて発行委員会が立ちあげられて創刊され、その後紆余曲折もありながら74号を迎えている、それぞれの場で生きる人がそれぞれの思いを発信している月刊の誌です。今月はオレンジギャラリーを訪れて下さった方からすてきなこぼれ話が寄せられました。

## To tell the story 70 「神さまのいたずら」

みなさん、お久しぶりです！昨年  
末に引っ越した加藤です。東京での  
生活ももうすぐ10ヶ月になるうとし  
てます。子どもたちはすっかり、そ  
して私もやっと慣れ、それぞれ忙し  
い日々を送っています。

9月の立木さんの共同通信に元気を  
もらい、私も共同やいろんなところ  
に引っ越された皆さんにお手紙書か  
せていただきます。

同じ町に私たちより数年前に引っ  
越してきている共同出身のお友達が

時代にふり回されるのではない  
あの時 心を躍らせて生きた  
後悔に 身をふるわせたこともある  
笑い 泣き 歯ぎしりをした  
今日 こんな決意をしたという

自分の人生を語ってほしい、  
自分の人生を語ってほしい、  
自分の人生を語ってほしい、  
自分の人生を語ってほしい、  
自分の人生を語ってほしい

います。建と同じ3年生の栞奈ちゃん、林瑚と同じ年長の岬季くんがいる村雨家です。最近さらに家も近くなり仲良くしてもらっています。そのママから「10月25日、池袋に順子先生来るから会いに行こう！」と9月頃メールがきました。「うんっ！もちろん行く！」と何も詳しいことはわからないけどふたつ返事、会えるならそれで十分！とその日を楽しみにしていました。

そして昨日...林瑚は幼稚園のお友達達の誘いも「前の幼稚園の先生に会いに行くから～」とあっさり断り、村雨家と池袋に向かいました。駅を出ると、すぐの所にあるギャラリーでその合同展は開かれていました。実は当日まで何の個展か分からず(すみません！)入り口に園長先生と岡さんがいるのが見え、やっと状況を把握した感じでした。(ホントにすみません！)

園長先生との再会に駿と建はうれしいのやらはずかしいのやら微妙な表情、でもそれもつかの間、子どもたちのテンションは上がり、ギャラリーにはあり得ない走り回る子どもたち、「そんなのいいよー。」と岡さんのやさしい一言。私は東京で園長先生や岡さんと同じ空間にいるのがなんだか不思議な気分でした。

でも残念なお知らせが...順子先生はついさっき帰られたとのこと。  
2 えーっ！入れ違いになってしまいま

した。そっかぁ～...でも園長先生に会えたからと気を取り直し、合同展を拝見させていただきました。岡さんの刺繍で彩られた園長先生の詩は懐かしく、それが生活の中にあたりまえにあったな～と西宮でのことを思いました。しっかりとっている横で、気がつくともどもたちはジュースやお菓子を園長先生からおもてなしいただき絶好調。

そんな中、順子先生から園長先生に連絡が...「新幹線のチケット、園長先生のを間違って持ってきてしまったので今からそっちに戻ります！」ということで順子先生戻ってきますが...と園長先生に言われ、またまたえーっ！待ちます！もちろん待ちます！すごーい！こんなことあるんですねー。と話していると、岡さんが「あの人こんな間違い絶対しないのに。みんなと会うようになってたんやね。神様が間違おうようにしたんやわ。」と。やっぱりすごーい！！

「順子先生まだー？おそいなー。」順子先生を待っている間、園長先生の近況報告なども聞きながらみんなでおしゃべり。数十分後、順子先生登場！ついに再会出来ました。早朝からの多忙な一日だったはずなのに、いつもの笑顔の元気な順子先生に驚きつつ、普通の再会よりちょっと得したうれしさがありました。

早速近況報告などこちらの幼稚園の話をしたり、最近の公同の話や

いたり、話したいことはいっぱい。その横でお構いなくはしゃぎ回る子どもたちみんなにも声をかけてくださいました。林瑚にも「幼稚園楽しい?」「うん、たのしい!」「子どもはそれでいいのよ。」

共同の運動会の話にも。園長先生が手作りで準備した楽器や順子先生のリレーの時の一人ひとりへの声援、どれも経験できないと思うと寂しく悔しく...悔しいといえば、我が家には一番共同の運動会に参加できなくて悔しい思いをしている人がいます。ああ、あの人ね、とご存知のかたもいらっしゃると思いますが、加藤家運動部長、兼、父さんです。

運動会の前の晩は楽しみで寝れず、リレーで走った後はもう来年のリレーのことを考え、去年は転勤先から運動会のために休みを取り戻ってき、その前の年は朝スーツ姿で順子先生に「リレーまでには戻ってきます。」と勝手に宣言して仕事に行きました戻ってき、とにかく自分の運動会と勘違いしているのかと思うほど共同運動会大好きなのです。

こちらの幼稚園は楽器での入場行進から始まり、ダンス、障害物競走、組み立て体操、リレー etc どれもどんなに練習を重ねたんだろうと思うような今までとは全く違う運動会でした。「共同だったら...」引っ越してきてからほとんどそんなこと言わなかった主人が運動会ではそればかり

言っていました。自分も参加してこそその運動会なのです。林瑚は一生懸命練習して、毎日楽しそうでした。「子どもはそれでいいのよ。」と順子先生の言葉どおり、こちらに来てそれでいいんだと思えるようにもなりました。今年は運動会も共同まつりも参加できませんが、共同にいる皆さんはその中に飛び込んで、思い切り子どもに負けないくらい楽しんでください!我が家の分まで~。絶対何倍も楽しいですから。

話がそれましたが、そんな再会の時間を過ごしました。ギャラリーの中で大騒ぎした後にもかかわらず、帰り際に園長先生が「少しづつ大きくなれよ。急がなくていいから。」と子どもたちに言ってくださいました。駅までの道、順子先生と駿が並んで歩いています。何を話しているのかは聞こえませんが、いいなと思いながら見ていました。そんな関係はずっと続くんだろうなと思えました。

帰り道、菜奈ちゃんがママに「間違えてくれてありがとう、だね。」と話していました。神様のいたずら?のおかげで叶った素敵な再会でした。

(加藤 亜紀子)

(注;会場にお見えくださった加藤さんにその場の報告をかねておたよりをいただきました。)

## 日本基督教団

1941年、太平洋戦争の開始を前に、政府の宗教団体に対する統制を目的とした「宗教団体法」に促され、30余りのプロテスタント教会諸派が合同して成立、戦争協力の道を歩む。敗戦後は、戦勝・占領国である米国の援助で、キリスト教の布教に努めるが、1970年をピークに信徒数は減少する。2009年3月31日現在1,725の教会・伝道所が在籍。教師2,178名。現住陪餐会員数92,340名、礼拝出席者数57,284名。

# 卑法と闘う同志でありたい 小さき小さき負傷者たちの為に

(菅澤 邦明)

「ハイブリッド車(HV)や省エネ家電づくりに欠かせないレアアース(希土類)の取引を、中国企業側から一方的に破棄された日本企業が出ていることが20日、分かった。九月下旬以降、レアアースを扱う日本企業30社のうち中国から輸入できたのは、2社だけ。民間の試算では、日本は来年、必要量の3割に当たる1万トンのレアアースが不足する」(2010年10月21日、朝日新聞)。輸入するレアアースが不足し、「レアアース停滞深刻」ということになるのは、日本の産業の中心で輸出などの中核である、自動車、液晶パネル、デジタルカメラ、携帯電話などで、それらに欠かせないレアアースの30%が不足することになれば、とっても大変で深刻で、大問題なのは、そのままたくさんの人たちの生活に影響を及ぼすことになるからです。

「第37回日本基督教団総会議長報告」では、何一つそれらしいことは言及されませんから、そんなことはど

うだっていいのだと思います。そして、どうだってよくないのは「教団の一致はいずこに? 御霊の導きを渴望しつつ」という標語の“一致”なのだそうです。一致については「沖縄教区に限らず、教区と教団の関係の不信感が全国的一致を妨げ、歩みが前進できないでいることを憂います」と言い、更に今後の課題を列挙する中の一つとして「信仰告白、教憲・教規の一致を旗印としていく」と、一致について繰り返し言及します。こうして言及される“一致”は、たとえ少しでも異なったものが存在するだけで一致がおびやかされる、異なったものの存在を許さない、即ち、力づくでも排除を辞さない一致なのです。その場合の、具体的な力の行使が「北村慈郎教師に対する免職処分」だったりします。

で、“一致”なのですが、それが使われるのは前掲の「教憲・教規を一致の旗印としていく」とする教憲の「・・・くすしき摂理のもとに御霊の

たもう一致によって、おのおのその歴史的特質を尊重しつつ聖なる公同教会の交わりに入るに至った」と、一回だけ使われます。その場合の一致は「わが国における30余派の福音主義教会およびその他の伝統を持つ教会は、それぞれ分立して存在していたが、1941年(昭和16年)に、『宗教団体法』のもと一つになる(一致)を選びます。たとえば、30余派の“1派”である「日本組合教会」の場合、「教会の一致のためには、この程度・・・」のものである「信仰的告白」を持つものの、教規ではそれについて言及されていません。要するに、教憲に書かれている一致は、いかなる差異も許さないという意味での一致ではなく、あれこれ、いろいろ異なっているものが、「くすしき摂理のもとに御霊のたもう一致」「交わりに入った」一致だったのです。それが(神の)摂理や御霊のたもう一致であったのだとすれば(確かに、そのように理解されているのですが)、それがどんなに深い意味を持っているか、問いかつ問われることがあったとしても、疑義をはさむなどということはあってはならないし、摂理や御霊のたもう一致、即ち奇跡的な出来事は、本質的な意味で評価とはなじまないものなのです。

「厚生労働省は20日、70～74歳が病院窓口で支払う負担割合(現在は原則1割)について、2013年度から

段階的に2割に引き上げる方針を固めた」(2010年10月21日、朝日新聞)。この年代約600万人の医療費1%、約2000億円は“公費”で穴埋めされていますが、財源が得られなくなる為の方針(転換)です。若いころと同じ程度に、高齢になっても体調を保てるのであれば、医療費の負担が若い人たちと同じ程度ということはありませんが、足腰や抵抗力が衰える高齢者は、医療機関の世話になる機会がなくなります。だとすれば、負担を軽減するということがあり得ることです。なのに、負担割合を2割にしようというのが、今回示された方針です。

「第37回日本基督教団総会議長報告」では、何一つそれらしいことは言及されませんから、そんなことはどうだっていいのだと思います。そして、どうだってよくないのは、「信仰職責をめぐる論議」は「ルールの上に立った自己抑制」が必要で、それは「神は無秩序の神ではなく、平和の神」だから(コリント人への第一の手紙14章33節)なのだそうです。で、言うところの秩序を乱した北村慈郎教師に対する“戒規申立”があって、“免職処分”が決まり、その決定を受けて、「『北村慈郎教師にかかわる教師定職年金について』の通知」が本人に届けられています。内容は「貴方の給付額は25%減の75%(終身年金)となります。・・・なお、貴方が悔い改

めをもって復帰された時には、25%の減額措置も解除されます」です。一つである（一致である）べき、教憲・教規の規定（秩序）に違反する、異なった聖餐の方法（未受洗者への配餐）を選んだ結果の免職・減額です。そのことの根拠を、聖書に求めたのが、前述のコリント人への第一の手紙14章33節です。これが「あなたがたと一緒に集まる時の（教会の）秩序のことであるとすれば、「婦人たちは教会で黙っていなければならない」（同14章34節）もそれにあたります。

あたりますが、この文書を書いた人（パウロ）の好み以上に、示せる根拠は見つからないはずで、それでもあるはずの“秩序”は、それが成り立つとすれば奇跡的な出来事であって、本質的な意味で評価しにくいのはもちろんのことです。

（菅澤 邦明）

日本基督教団（以下教団）総会議長、山北宣久牧師が、教団の機関誌に掲載される所感、毎年の教区総会への挨拶文、二年ごとの教団総会への報告文について、目にする限り書いてきた感想文を、「山北宣久牧師と菅澤邦明牧師の往復書簡（？）」として発行したのが、2008年10月20日でした。その時に“予告”していた「山北宣久牧師と菅澤邦明牧師の往復書簡（？）」を2010年10月25日に発行することになりました。「リーダーシップを発揮できなかった」と自ら認める、山北宣久牧師の所感等が少なかった為、小さな小さな本になりました。上記の文書は、「第37回日本基督教団総会議長報告」についての感想文で、小さな本に間に合わなかった為付録としました。

「山北宣久牧師と菅澤邦明牧師の往復書簡（？）」  
（190頁、1,800円）

「山北宣久牧師と菅澤邦明牧師の往復書簡（？）」  
（64頁、付録、カード付きで500円）

## “すてきな秋の出会い”

園庭の木々の葉も色付き、涼しい秋風に吹かれイチョウの木からはぎんなんがポトリポトリ～落ち始めました。もちろんオリーブもたくさん実っています！！幼稚園の畑でも、真っ赤なひがんばなからコスモスへ～また、今年も大豊作だったさつまいも畑もたくさんの方達の手によっていちご畑へと変身しました。みんなの手で収穫したさつまいもは210キロ！それらを毎日のようにきんぴらに味噌汁に梅煮に蒸しパンに大学いもにスイートポテトに～とさまざまな料理で味わっています！！また、園外から帰ってきたみんなの手やポケットにはたくさんのだんぐりやまつぼっくりや色鮮やかな葉っぱが～園庭で畑でいろいろな所で、秋を存分に感じ味わっている子どもたちです。

今年は、それに加え年長組は新たな体験！“後川の秋”を身体いっぱい感じてきました 最初に訪れた6月から7月、9月、10月と何回も訪れる度に、ひとつの小さな出会いから大きなつながりに～。10月は、稲刈りを間近で見る！！体験からはじまり、栗ひろいに黒豆の枝豆の収穫に秋の森散策～など後川ならではの秋をしっかりと見て、感じて、味わってきた年長組との後川でのひと時でした。

後川から帰った後、年長組のみんなと一緒に順子先生から聞かせていただいたデヴィッド・スズキさんの言葉。「その時、その場所でとれる旬のものを食べられることがなにより幸せなこと」まさに、共同幼稚園そのもの！！そんな幼稚園の日々がなにより素晴らしいものであることを、改めて感じました。後川の城東味祭りでも歌った年長組の「しあわせのひ」その素敵な歌声に感動してくださった後川の方々。歌う姿がとにかくかわいかったぽっぽ組から堂々と歌えるようになったさんぽ・らった組。そんな歌とのつながりが、聞いている人の心にジーンと響く年長組の歌声に また、今持てる力を出し切って登った甲山。転んで泣きながらも懸命に歩いたぽっぽ組のあの日から2年。年長組は、幼稚園から甲山頂上までの往復という大人でも大変な道のりを堂々としっかりとした足取りで歩けるように。さらに、入園式に幼稚園の桜からはじまり、園庭で畑でいろいろな所で広がったみんなの花との出会い。今では、わたしより花に詳しい子どもたちです。

毎日いろんなものに出会い、新たな世界が広がっていく共同幼稚園での生活。その今を懸命に生きている子どもたち。そんな子どもたちの姿に、今までの幼稚園の日々や体験が 7

みんなの心に深く刻まれていることを感じ嬉しくなりました。そして、そんな共同幼稚園の日々を過ごせるのも多くの方々の支えや見守りがあってこそ。その感謝の気持ちを忘れず、

これからの日々も過ごしていくことができますように・・・。

(池ヶ谷 理沙)

### ~今月のゆり~

街に漂うキンモクセイの香りの中、今日も朝を迎えられましたことを感謝します。

いつも自分と、自分の周りのことばかりを考えてしまう私たちです。けれど、自分とは遠く、関わることのないと思っていた地域の人々が喜ぶニュースを聞き、自分も共に心を励まされるような気持ちになれることに、幸せを感じています。そして同時に、心を寄せている活動者の報告から、アフガニスタン・パキスタンを襲った大洪水、そこにつけいる欧米軍の空爆の惨状を知り、自分も省みて、人であるが故の弱さと愚かさ覚え、心をさわがせています。

神さま、この地球上に同じ人という存在で生まれた私たちが、なぜ愛し合うのか、なぜ争うのか、なぜ関心も持たずに関わりを切ることができるのかを教えてください。

あなたが御子イエスをつかわして教えられた、本当のあるべき世界の姿を、どうかもう一度指し示して下さい。

(大平 有紀)

## みかん便り

こんにちわー。9月は2週間、インド・ネパール・香港の3カ国旅してきました。いっぱい書きたいことはありますが、1番感動し、悩み、学んだインドのバラナシでの3日間のことを書こうと思います。いざ、聖なるガンガー（ガンジス河）の街バラナシへ。

### 1日目

寝台列車で向かい、9時に到着。駅でキョロキョロしているとゲストハウスのお迎えがいました。22歳の青年、アバヤさんです。2年間日本の大学にも留学をしていたらしく、日本語は得意のよう。ゲストハウスまで歩いて向かう40分の中に仲良くな



り、荷物を置いた後、町を案内してくれることになりました。昼飯を食べ、服やお土産を買い、寺院などいろいろ回ります。この日の最後にアッシーガートという所に行きました。ガートとは沐浴所のことです。川沿いに50か所くらいあるのですが、アッシーガートは1番端で、バラナシの果てと言われている。目の前で見たガンガの圧倒的な存在感は写真や話、映像では伝えられないほどです。『ガンジス河に抱かれて』『すべてを受け入れる大きな存在』といわれているのが見事に伝わりました。2時間程眺めていましたが、まだまだ見たい、バラナシにずっと住んでいたいと思わせてくれる風景でした。

この日1番嬉しかったのは、現地の子供たちとの触れ合い。日本では「ストリートチルドレン」と言われていますが、あちらでは「プアーチルドレン(貧しい子)」と呼ばれています。アバヤさんと話していると近寄ってきた12歳くらいの男の子。ポストカードを1枚10ルピー(約20円)で買ってほしいと言っています。市場では6ルピーです。アバヤさんと話して、買うことは悪いことではないので買ってあげました。写真は良い思い出にもなりますしね。たった30ルピーは1食食べるのがやっと。それでも笑顔になってくれるのは嬉しい。プアーチルドレンの生活は何も変わりませんが、1食は食べることはできる。こ

れで十分だと考えよう。

観光を終え、ゲストハウスに帰る途中、アバヤさんが声をかけてきました。「ガイドを1日雇うといくらかかるとおもいますか？」インドの物価の安さから「500ルピーくらいですか？」と聞くと、「1500ルピーです」とのこと。ちなみにバラナシでアルバイトが1ヶ月に稼げるのは多くて1000ルピーくらい。でも、アバヤさんは言ってくれました。

「僕たちはもう友達だから、友達からお金を取ることは嫌だ。だから、僕が間違った日本語を喋っていたら教えてください。日本語をもっと学びたいです。」

めっちゃありがたい言葉ですし、何よりインドに友達と呼べる人ができてとても嬉しかったです。「ありがとう。」と言うと「友達にありがとうは変です」と言われました。「日本人は友達でも家族でも嫌いな人でも、嬉しいときにはありがとうって言うんやで。」と1つ教えてあげて、1日目は終了しました。

## 2日目

2日目は朝日を見るために5時からボートに乗り込みガンガへ。曇りだったので見えませんでした。沐浴風景を見るなど観光客の定番をして、再びアッシーガートへ。2日目はアバヤさんの観光ルートをほとんど廃棄して、6時間アッシーガートでガンガを眺めていました。

この日は2人のプアーチルドレンの女の子に出会いました。昨日の男の子は12歳くらいでポストカードを売っていましたが、今日の子はひたすら口に手を持っていき「何か食べれる物をください...」とっていました。実際はヒンディー語だったので理解はできませんでしたが多分間違っていないです。服や体にはハエがたくさん止まっています。しかも知り合いの女の子に少し似ています。気になって仕方がない。とりあえず「NO...Sorry...」と言い続けましたがずっと目の前で何かをほしがっています。アバヤさんが少しいらいらしながら女の子たちを追い払いました。数分後、またその女の子を見つけました。川沿いに座って、水遊びをしている男の子をじっと見えています。アバヤさんにちょっとブラブラしてくと行って、その子達の近くに行きました。近づくとやっぱり口に手を当てて訴えてきます。悲しそうとは違う、いままで見たことのない不思議な目でこっちを見ていました。無性に笑った顔を見たくなくて、とっさにガンジス河で遊んでる男の子たちにカメラを向けました。案の定カメラに興味を示してきます。1枚撮ってあげました。まだ笑顔はぎこちない。タッチパネルで遊んで、また撮影タイム。笑ってくれた。でも目は変わらない。少し時間をおいて話してみました。1時間くらいかな？その間もいろ

んな子が集まり、踊りを教えてあげたり、逆に踊りを教わったり。言葉は全く通じませんが、少しは心を許してくれたみたいです。踊りってすごいですね。言葉がなくても気持ちがどんどん伝わってきます。

別れる前にもう1度、「Let me take your picture?(写真撮ってもいい?)」と言うと、髪を整え始めます。やっぱり女の子なんやなと思うとホッとしました。この時の写真はこの旅のベストショットです。心から笑ってくれました。お互い楽しい時間になったかなと思うと、断り続けた罪悪感は少し消えました。そう思いました。でも、帰り道でふと「何か欲しがってたんやし、持ってたミネラルウォーターくらいあげればよかった。写真のお礼って言って渡せばお互い気も楽やったのに...」と思い始めました。こうなるともう後悔しっぱなしです。食べ物をほしがってると思いい、「I don't have food.」と言っていた自分が嫌でした。

この日1日を過ごすのに自分は3食食べて、ハウスで寝て、お土産を買って、ボートに乗りました。1日生きるのに必死なプアーチルドレンからすれば、外国人は何か不必要なものや飲食物をもっている存在に見えているのだと思います。今日会った2人の子に半分しか入っていないパックのミネラルウォーターをあげても何も変わりません。たまに4人くら

いで集まっている姿を見ると4人以上の兄妹がいるのだろうし、1人1口飲むとなくなってしまう。周りを見ると同じような境遇の子もいっぱいいます。でも、1口でなくなってしまうとしても、この子たちは1口の水が欲しかったんやろなあと思う。あげるのは自己満足やし、Give and Take っておもうとするのも言い訳やとは思いますが、自分にはそれしかできません。次はこんな後悔をしないようにしようと思って就寝です。

### 3日目

アバヤさんと食事をしてバラナシ駅へ。昼の便でデリーに帰ります。アバヤさんに手紙を渡して、サヨナラをしました。彼に会っていなかったらバラナシをこんなに好きになることはなかったし、また行きたいとも思っていないと思います。まず、無事に旅を終えることも難しかったです。本当に感謝をしているけど、アバヤさんは「友達だから当たり前」

というんやろなあ。ほんまにありがとうございます。

バラナシでは人の温かさや優しさをいっぱい感じました。何かをしてもらったらやっぱり何かを返さなあかん。夕張でも同じことを感じましたが、やっぱりこれは大切なんやろと思います。形に残るものは何も返せませんでしたけど、お互いにいい思い出になってたらいいですね。

バラナシでは人との関わりを学び、プアーチルドレンについてしっかり考える時間も貰い、踊りの力も感じることができました。旅で一回り大きくなれたのかはわかりませんが、なれてたらいいですね。

皆さんもよかったら1度バラナシに行ってみてはいかがですか？お勧めです

長々とここまで読んでいただきありがとうございます。では、また来月

(河村 高志)

## すずや便り

こんにちは。3 か月ほど大学の社会人向け講座（経済）の事務をすることになり、子どもたちと同じ時間帯に出勤する生活を送っています。気候も良いので朝から外に出るのは気持ちがいいものです。授業の助手として修士や博士課程の学生さん達がいるのですが、全員中国からの留学生です。みなさん日本語が上手なので、何の違和感もないどころか私よりも論理的？と思うこともしばしば。仕事にも慣れて休憩時間に彼らと話す余裕もでてきました。

学校の登校時間の話になった時のこと、「中国は6時半（7時の人もいた）には学校に行く（＝到着している）のです」「え？午後の方？」「いえ、朝の」。早い～。朝は1時間ほど自習（でも出席はとる）をしてから午後4時ごろまで授業、夕食後また学校へ行って夜の9時ごろまで補習！学校でそこまで勉強するので、塾は無いそうです（北京などは違うかも～とのこと）。しかもそれが9年間だそうで、ものすごい勉強量にびっくりです。大学は自主性を重んじる＝勉強を強制されないのがみんな遊んでしまうのだとか。日中の違いも冷静に観察しているようで、比較文化論を聞くのがこれから楽しみです。

「日本のアニメが好きなので、日本で勉強しようと思った」という女の

子にどんなアニメが好きか聞いたところ「ワンピース！」。あとは、ナルト、クレヨンしんちゃん、ドラえもん…。新旧合わせてよく知っているので、しばしアニメの話で盛り上がりました。国境も年齢も軽く飛び越えるなんてジャパンアニメ、さすがです。

ところでワンピース、昨年春の日経新聞「大人に読んでほしい漫画ランキング」第1位だったのです。ずっと気にはなっていたのですが、長男が友だちから借りてくるようになりついに手を出してしまいました。

すごい勢いで借りてくるので必死で読まないといけません。戦いの場面は飛ばし読み、一気に（といっても10日くらいはかかっています）44巻へ。4つめの大きな話の終わりなのですが、この巻の最後は涙なしでは読めない…こっそり聞くと長男も同感と。お互いに泣く姿は見せませんけどね。一気に読みのおかげで、話の最初からしっかり頭に入っていたのが余計に効果的だったのかも。秋の夜長にぜひお勧めしたいのですが、当然のことながら44巻だけ読んでも何のことやら？になってしまいます。覚悟を決めて1巻からワンピースの世界に飛び込もうと思ったあなた！44巻の感想をお待ちしております。

## ～にしきたの街の催し物のお知らせ～

◇ 11月15日(月) 第1回「旬・歌・膳」

◇ 11月22日(月) 第2回「旬・歌・膳」

場所: フェリーチェ音楽院、時間: 12時30分～、歌: 畑儀文(テノール)・春木浩子(ハーフ)

申し込み: 0798-65-0561

◇ 11月20日(土) にしきた点灯式

場所: アクタ西宮円形デッキ、時間: 17時10分～、ゲスト: MUD RECORDS

2010年10月 あんなこと こんなこと...

## 教会学校から

### 《9月の活動報告》

9月5日(日)津門川川掃除大会  
ひらき・まつり

9月12日(日)

- ・後川 DAYS! 後川クイズ&デカンショ節
- ・2010LALALA ミュージシャンコンテスト  
予選～後川の子どもたちを招いて  
於：西宮公会堂礼拝堂

9月19日(日)鹿児島・川内教会のこと  
を知ろう

9月26日(日)“星ころ”を作る

### 《10月の活動予定》

10月3日(日)鹿肉カレーを食べる

10月10日(日)わなげ大会!

10月17日(日)

- ・幼稚園のみんなと一緒に大なわで  
8の字大会をしよう

10月24日(日)

全国上映キャラバンを呼ぶ  
藤本幸久監督のお話&「また、また、  
辺野古を考える」上映会

10月31日(日)“星ころ”を作る  
パート

# 大切な贈り物・津門川 9 6

## “ 津門川しらべ ”





## つとがわ 編集後記

日本基督教団と言うキリスト教の宗教団体の、二年毎の総会に参加するようになったのは、1969年頃だったように思います。元気に議場を走り回ったり、そこで議決されることに、少しばかり影響を与えたりしたこともありました。「“現代の宗教”のための聖書註解書」の発行にあたっては、3回の総会期を経て決まり、1991年に第1巻「詩篇註解」を発行することになり、以下1993年に「マルコによる福音書註解」、1996年に「創世記註解」を発行しましたが、その後、註解書の発行母体である、宗教委員会の委員として選任されることがなくなって、註解書の発行を続けることはできませんでした。

教団総会には、最近では議員としてではなく、傍聴者の一人として参加していますが、その時々、キリスト教や教団についての感想を、会議場で配布したりしてきました。20代後半で、教団の会議に顔を出すようになり、発言の機会などもあったりしましたが、40年経った第37回総会では、総会期中の決定機関である選挙が“全数連記”になりました。ほぼ、同じ立場や理解の人たちによって“独占”されるということになりました。

( K )

今年はいつまでも暑い夏が続いたので、秋は短いです～と聞いてはいましたが、こんなに急に寒くなるなんて！です。毛布を準備しなきゃ～とか、冬服を出さなきゃ～とか、寒さについていけず、体を震わせています。年々、寒さが身に凍みるような気がするのはきのせいだろうか？寒い、イヤだなあ・・・。

( I )

だんだん寒くなってきました。この時期になると、毎年編物がしたくなります！私の場合、この時期から始めてこの冬に間に合うかどうか～？なのですが...毎年、1年のブランクに苦しみ、基礎から本を読み直して、編みはじめるまでに時間がかかるっ！一昨年はモチーフ編みにはまり、昨年はニット帽。今年は何を編もうかなあ... 小物ば

かりでなく、どーんと大作を作ってみたいけれど、来年の冬用になるかな...

( Y )

先日我が家に観葉植物が仲間入りしました。家の中に緑があるとその空間が癒されるというか～和むというか、以前とは違った雰囲気になりました。恥ずかしながら今まで家に観葉植物などをあまり置いたことがなくてこの歳でやっと家の中の緑の存在に気付かされました。

この『緑』の存在に感謝し、大切にしていきたいと思います。

( N )

60歳になったら映画はシニア料金になる、干支一回り前くらいまでは年に3桁の本数の映画を観ていたこともありどれだけその日が来るのが楽しみにしたことか あの時間は一体どこにいったのだろう、映画なんていつから観ていない！

60歳になったら老齡年金手続きが！いろいろ事情もあり夫の扶養家族の時代も長くあったので通知された金額にはびっくり、そしてそれが紙の上のことだけだとしても何かワクワクする。

60歳になったらジバング倶楽部！ひかり自由席だと新大阪東京間9260円、それで重い腰がとでも軽く、近畿を離れること今年はずでに10回以上。

60歳になったら腰は軽くなったけれど痛いことは多し、鍵や携帯電話や探し物多し、老眼鏡の傷み具合はひどくそしてすぐにどこかに勝手に旅立つこと多し。

60歳になってあっという間に1年以上。60歳は面白い。

( J )